

文学部教員研究活動一覧

(2024年度)

石田 友梨

論文

1. 「或るイスラーム研究者とデジタルヒューマニティーズの歩み」『文明動態学』4巻、2025年3月、123-133頁
2. (共著) Alíz Horváth, Cosima Wagner, David Joseph Wisley, Joanne Bernardi, Aanya Chadha, Danielle Garcia, Till Grallert, Sharanya Ghosh, Yuri Ishida, Aleksandra Kaye, Ahac Meden, Kiyonori Nagasaki, Dylan Palmer, Hugo Scheithauer, Marta Świetlik, Jeffrey Tharsen, Yifan Wang. Multilinguality in Action: Towards Linguistic Diversity and Inclusion in Digital Humanities. *magazén*, 5 (2), December 2024, pp. 179-196.
3. Network Analysis in Islamic Studies. *International Conference "Digital Humanities for Asian Languages,"* 17 December 2024, Okayama University.
4. 「デジタル技術が叶える人びとの願い：イスラーム神秘主義思想における時空の超越と生死の境からの考察」シンポジウム「接続する人文学：デジタル技術は人を幸せにするか」、2024年10月31日、九州大学
5. Taisei Watanabe, Yuri Ishida, Kensuke Baba. Ingredient Detection from Low-Quality Images of Food Labels. *International Conference on Innovations in Engineering and Social Science 2024 (ICI ESS 2024)*, 12 October 2024, Fukuoka Institute of Technology.
6. Muhammad Aurangzeb Ahmad, Ishida Yuri. Unraveling History's Threads: Leveraging Social Network Analysis to Explore History. *The 16th International Conference on Advances in Social Networks Analysis and Mining (ASONAM 2024)*, 2 September 2024, University of Calabria.
7. Network of Scholars in the Formative Period of Islamic Reform Thought: Based on Contemporaneous Biographical Sources. *The Annual Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO) Digital Humanities Conference 2024*

研究発表

1. 「死者AIが存在する時代のイスラーム神秘主義テキストの読み方」第42回RIDC マンスリー研究セミナー、2025年2月5日、オンライン(岡山大学)
2. 「岡山大学における池田家文庫のデジタル資料活用とデジタルヒューマニティーズ教育」仏教研究とデジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム、2024年12月22日、東京大学

(DH2024), 9 August 2024, George Mason University.

8. Religious Tolerance under Social Crisis: Based on the Islamic Documents after the Mongol Invasion. *Leeds International Medieval Congress (IMC 2024)*, 3 July 2024, The University of Leeds.

その他 (翻訳、事典項目、書評等)

1. The Tozanryu Shakuhachi Foundation (ed.). *Let's Play the Shakuhachi*. Kyoto: The Tozanryu Shakuhachi Foundation, January 2025, 30pp.

植村 玄輝

著書

1. 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』, ミネルヴァ書房, 2024年(植村玄輝「ブレンターノ」, 187頁, 「リップス」231頁, 「フッサール」, 232-241頁)

論文

1. 「見渡し・無価値化・自己統制——フッサール『改造』論文における倫理的な生の発生的現象学』, 『立命館哲学』第35集, 2024年, 1-34頁.
2. 「届かない応答——「デネット対フッサール」とその余白』, 『現代思想』, 2024年10月臨時増刊号, 168-182頁.

研究発表

1. “Motivation and Its Limits. Edmund Husserl vs. Edith Stein.” A talk at Husserl Archives Leuven, KU Leuven, 1 October 2024.
2. Genki Uemura, “Husserl’s Essentialist Reform of Brentano’s Axiology.” *Phenomenology and Emotional Life*,

The 5th Annual Conference of East Asian Network for Phenomenology, San Yat-Sen University (Zhuhai Campus), 2 November 2024.

3. 「ナトルプの心理学とフッサールの現象学」, ナトルプ没後100年記念シンポジウム (主催: 科研費基盤研究B「昭和戦前期における新カント派価値哲学の展開・意義・特色—学際的／国際的研究—」(研究代表者: 伊藤貴雄、課題番号24K00017)), オンライン, 2024年12月22日.
4. “How to Save Phenomena? Comments on Jocelyn Benoist.” A Workshop with Jocelyn Benoist, Rikkyo University (Tokyo), 20 February, 2025.
5. “Reinach and an Origin of Realist Phenomenology.” Fudan University (Shanghai), 17 March, 2025.
6. “Reinach and an Origin of Realist Phenomenology.” Zhejiang University (Hangzhou), 18 March, 2025.
7. “(How) Is Realist Phenomenology Phenomenological?” Fudan University (Shanghai), 19 March, 2025.
8. “The Method of Analogical Description.” Fudan University (Shanghai), 20 March, 2025.
9. “From Neo-Kantianism to Phenomenology. A Case Study in the Reception of Husserl in Japan.” Fudan University (Shanghai), 21 March, 2025. 2.

大久保範子

研究発表

1. 「相撲絵と江戸文化—浮世絵にみる江戸

- の勸進相撲—」、令和6年度市民学習センター主催講座、2024年10月24日、ライフパーク倉敷
2. 「神格化をめぐる表象と文化—力士の手形と信仰への変化—」、2024年度文学部プロジェクト研究「神格化をめぐる表象と文化」シンポジウム、2024年12月14日、岡山大学
 3. 「相撲絵の世界—浮世絵でたどる江戸勸進相撲—」、令和6年度美術史アカデミー、2025年2月22日、徳島城博物館
 4. 「教材としての美術館・博物館展示の可能性—大学におけるアカデミック・ライティングの授業実践—」、第47回 美術科教育学会、2025年3月22日、岡山大学
- その他

1. 「教えて！石川さん」、「Live News イット！」石川テレビ、2024年6月19日
2. 高大連携事業(津山高校)、2024年6月21日

川野 恵子

研究発表

1. 「著書紹介：身体の言語—バレエ・ダクシオンと18世紀フランス言語論」『岡山大学ヨーロッパ言語文化研究会2024年度総会』2024年6月8日、岡山大学。
2. 「デイドロの芸術論におけるidéeとmodèle idéal」『第75回美学会全国大会』2024年10月14日、大阪大学。
3. 「バトゥ言語論における「趣味」概念」『2024年度日本フランス語フランス文学会秋季大会 ワークショップ「18世紀言語論の射程—芸術・小説・教育」』2024年10月28日、関西学院大学。
4. 「18世紀芸術論におけるアイデアの成立—デイドロ『サロン』を中心に」『京都哲学

- 史研究会』2024年11月16日、オンライン。
5. « L'écopoétique et l'art du XVIII^e siècle », *Journée d'études : le thème végétal dans la littérature française et l'écopoétique*, 2024/12/22, Maison franco-japonaise.
 6. 「デイドロ『サロン』における caractère 概念」『フランス近世の〈知脈〉第11回研究会』2025年2月15日、大阪大学。

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 川野恵子「デイドロ『聾啞者書簡』翻訳(3)」『美学芸術学論集』第19号、神戸大学芸術学研究室、2025年、89-102頁。

久保 蘭愛

論文

1. 「方言文献としての『薬師瑠璃光如来本願功德經 直読訓点 完』(一)—紹介と翻刻—」、『岡山大学文学部紀要』77号、2024年12月、17-27頁

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「日本語の歴史」インドネシア・Dr.ストモ大学における講演、2024年9月9日
2. 「日本語のオノマトペ」タイ・カセサート大学における講演、2025年3月13日

栗林 裕

著書

1. 守屋三千代, 池上嘉彦, 角道正佳, 栗林裕, 岡智之, 宮岸哲也編『「ナルの表現」をめぐる通言語的研究：認知言語学と哲学を視野に入れて』ひつじ書房、2025年3月、511頁（共編著）（担当頁 1章-1「トルコ語の「ナルの表現」」pp. 35-44, 1章-2「トルコ語の「ナルの表現」—トルコ語版創世記から—」pp. 73-82, 1章-3「日本語訳とトルコ語訳の対照 —「星の王子

さま」から見えること—」pp. 101-110, 「フランス語の「ナル的表現」」pp. 155-163 (RENOUD, Loïcと共著), 2章-3「トルコ語とチュルク諸語の「ナル的表現」」pp. 203-208 (GENÇER BALOĞLU, Zeynepと共著), 「フランス語(原文)と日本語訳の対照」(RENOUD, Loïcと共著), 3章「翻訳小説の文末のOL-/BOL-/B'OL-の数量的比較—トルコ語・アゼルバイジャン語・ウズベク語訳の『星の王子さま』—」pp. 353-366)

論文

1. 「トルコ語の形容詞を伴う変化のナル的表現」、『日本認知言語学会論文集第25巻』、2024年12月、pp. 590-595.
2. 「トルコ語ナル的表現の特徴と日土対照研究」、『日語日文学研究 第133輯』、2025年3月、pp. 87-108.
3. 鷺野亜紀・Zeynep Şeremet・栗林裕「トルコ語の視覚動詞bak-の文法化をめぐって—トルコ語、日本語、英語のパラレルコーパスから—」『言語の類型的特徴対照研究会論集 第7号』2025年3月、pp. 83-104.

研究発表

1. 鷺野亜紀・Zeynep Şeremet・栗林裕「トルコ語の視覚動詞bak-の文法化をめぐって—トルコ語、日本語、英語のパラレルコーパスから—」言語の類型的特徴対照研究会第23回大会(岡山大学 2024年4月6日)
2. 「トルコ語の形容詞を伴う変化のナル的表現」ワークショップ:「変化」のナル的表現をめぐる認知類型論的研究. 日本認知言語学会第25回全国大会(神戸大学 2024年9月7日)
3. 「トルコ語の「ナル的表現」の特徴と日土

対照研究」日本語・韓国語・トルコ語の「ナル的表現」の対照研究—類型論を視野に入れて—、2024年度冬季国際学術大会:韓国日語日文大会、(祥明大学 ソウルキャンパス 2024年12月21日 オンライン)

4. Zeynep Şeremet・栗林裕「アゼリ語ウルミエ方言の疑問文のイントネーション—トルコ語との比較にむけて—」2024年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」2025年3月、(東京大学 本郷キャンパス 2025年3月26日)

米田 有里

著書

1. 寺田澄江・田渕句美子・新美哲彦編『源氏物語 フィクションと歴史』青簡舎、2024年11月、625頁(米田有里「『源氏物語』と権門—源通親の『正治初度百首』伊勢公卿勅使詠から—」、452-461頁)

論文

1. 「源通親の『源氏物語』撰取—『千五百番歌合』百首を中心に—」、『和歌文学研究』128号、2024年6月、31-44頁
2. 「『阿仏の文』—八段「氷にむせぶ下萩の袖の雫」小考—宮廷女房の零落と「琵琶引」—」、『日本文学』73巻12号、2024年12月、22-33頁

研究発表

1. 「源通親と王朝—新古今時代の『源氏物語』撰取から—」、岡山大学国語国文学会、2024年9月23日、於岡山大学(オンライン開催)

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「新刊紹介『阿仏の文(乳母の文・庭の訓)』

注釈』、『和歌文学研究』129号、2024年12月、57-62頁

清家 章

論文

1. 清家章「6世紀の妃墓と大王墓」『待兼山考古学論集』IV 大阪大学考古学研究室 2025年3月 pp. 565-576
2. 清家章・濱田竜彦・篠田謙一・神澤秀明・安達登・角田恒雄「ミトコンドリアDNA分析からみた古墳時代の埋葬原理(予察)」『国立歴史民俗博物館研究報告』第252集 2024年11月 pp. 95-112(査読有り)
3. 清家章「吉備における古墳時代後期の親族構造」『吉備の巨大古墳と巨石墳』雄山閣 2024年8月 pp. 91-100
4. 清家章「ヒメヒコ制・二重王権制と考古学」『日本考古学の論点』下 雄山閣 2024年6月 pp. 51-58
5. 清家章・神澤秀明・河合洋介・篠田謙一・角田恒雄・亀田勇一・安達登・富岡直人「DNA分析からみた岡山県津山市久米三成4号墳出土人骨の親族関係」『日本考古学』第58号 日本考古学協会 2024年5月 pp. 19-31(査読有り)
6. 清家章「考古学からみたDNA分析」『考古学研究会70周年記念誌 考古学の輪郭』考古学研究会 2024年4月 pp. 230-231

竹島あゆみ

論文

1. 「ヘーゲルの和解概念・1 ―キリスト教における和解の教義―」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』58号、2024年12月、1-10

合評会評論

1. 「小井沼広嗣著『ヘーゲルの実践哲学構想 ―精神の生成と自立の実現』評論三」、『ヘーゲル哲学研究』30号、2024年12月、125-133

研究発表

1. “Why is Ethical Life Called ‘Living Good’? An Examination of Hegel’s Concept of Sittlichkeit”, 35th International Hegel Congress of the International Hegel Society, 4 October 2024, Tbilisi, Georgia

田中 共子

著書

1. 高濱愛・田中共子 『一人でできる 留学準備・活用ノート』 三修社 2024年11月30日 全198頁
2. 一般社団法人日本心理学諸学会連合心理学検定局編 『心理学検定基本キーワード 第3版』 実務教育出版 2024年11月5日 全419頁(田中共子(科目別編集責任者:健康・福祉)「レジリエンス」335)
3. 一般社団法人日本心理学諸学会連合心理学検定局編 『心理学検定公式問題集 2025年版』 実務教育出版 2024年11月5日 全413頁(田中共子・藤田益伸「Part3 心理学検定模擬問題と解説 9.健康・福祉」57-59)

論文

1. 中野祥子・田中共子 「日本人ホスト向け中国人との交流に向けた文化アシミレーター作成に向けてー課題の試作と評価ー」『山口大学 大学教育』22, 2025年3月 28-36
2. 畠中香織・山本恵美子・山野洋一・田中

- 共子 「日本人スタッフにおける「異文化間ケア教育」のパンフレットへの反応と協働環境への認識—在日外国人ケア労働者との協働文化の構築に向けて—」『梅花女子大学看護学部紀要』15, 2025年3月20日 1-13
3. 奥西有理・田代夏子・田中共子 「在日留学生の異性との関わりにおける対人行動上の困難と対処」『岡山理科大学紀要・B・人文・社会科学』60, 2025年1月24日 71-79
 4. 三宅沙侑美・山野洋一・田中共子 「介護士に必要なソーシャルスキル—教育実践に向けた研究課題の展望」『社会文化科学研究科紀要』58, 2024年12月27日 1881-1671
 5. 三宅沙侑美・山野洋一・田中共子 「デイサービス介護士のソーシャルスキル尺度群の開発」『応用老年学』18 (1), 2024年10月11日 84-96
 6. 趙師哲・田中共子 「越境者文化意識と主観的ウェルビーイング—日本在住中国出身長期滞在者の場合」『第7回アジア未来会議プロシーディングス』2024年8月 1647-1655
 7. Sayumi Miyake, Yoichi Yamano, Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka. Developing Positive Sence of Relationship Scale for Day Service Caregivers. *Compilations of Conference Papers of The 7th Asia Future Conference: Revitalization and Reconnection*. 2024.8, 912-918
 8. 中野祥子・田中共子 「在日留学生の日本人との交流における異文化葛藤—日本人ホスト向け中国文化アシミレーター の作成に向けて」『第7回アジア未来会議プロシーディングス』2024年8月
 9. Shizhe Zhao, Miki Ozeki and Tomoko Tanaka. Examination of the Cultural Awareness Scale for Border Crossers: For Long-term Chinese Residents in Japan. *Journal of Social Innovation and knowledge*. 1(1), 2024.8, 23-43
 10. 三宅沙侑美・田中共子 「介護士における利用者との対人関係形成のためのソーシャルスキルの探索」『応用心理学研究』50(1), 2024年7月 1-20
 11. 畠中香織・山本恵美子・山野洋一・田中共子 「高齢者介護施設における在日外国人ケア労働者を対象とした異文化間ケア教育—縦断的測定による教育効果の検討—」『文化看護学』16 (1), 2024年5月31日 11-21
- 研究発表
1. 田中共子 「ワークショップ3・大学とダイバーシティ・報告：留学交流の場で使えるワークショップの方法」(講師) 大学コンソーシアム京都 第30回FD・SDフォーラム 2025年3月25日 龍谷大学深草キャンパス
 2. 畠中香織・山本恵美子・山野洋一・島井哲志・田中共子 「介護施設における協働文化の構築に向けた取り組み(2)—外国人ケア労働者による日本人スタッフとの協働の方略」文化看護学会第17回学術集会 2025年3月16日 千葉大学亥鼻キャンパス
 3. 田中共子 「会員企画シンポジウム：自然災害後の健康心理支援について—学校・家庭・地域に何をするか?—」(指定討論) 日本健康心理学会第37回大会 2024年11月23-24日 別府大学

4. 畠中香織・山本恵美子・山野洋一・島井哲志・田中共子 「介護施設の協働文化の構築に向けた取り組み—日本人就労者による外国人ケア労働者との協働の方略—」 日本健康心理学会第37回大会 2024年11月23-24日 別府大学
 5. 三宅沙侑美・山野洋一・田中共子 「デイサービス介護士のソーシャルスキル尺度群の短縮版尺度の開発」 日本健康心理学会第37回大会 2024年11月23-24日 別府大学
 6. 中野祥子・田中共子 「日本人ホスト向け中国文化アシミレーターを用いた教育の試み」 多文化関係学会第23回年次大会 2024年10月5-6日 順天堂大学お茶の水キャンパス
 7. トウケン(鄧娟)・田中共子 「中国出身の日本永住者における日本人との親密化に関する事例的研究」 日本応用心理学会第90回大会 2024年8月27-28日 帝塚山大学学園前キャンパス/オンライン
 8. Sayumi Miyake, Yoichi Yamano, Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka. Developing Positive Sence of Relationship Scale for Day Service Caregivers. The 7th Asia Future Conference. 2024.8.9-13 (11). Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand (Sayumi Miyake 優秀論文賞・招待参加)
 9. 趙師哲・尾関美喜・田中共子 「越境者文化意識と主観的ウェルビーイング—日本在住中国出身長期滞在者の場合—」 第7回アジア未来会議 2024年8月9-13 (11) 日 Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand (趙師哲 Best Presentation Award)
 10. 中野祥子・田中共子 「在日中国人留學生の日本人との交流における異文化葛藤—日本人ホスト向け中国文化アシミレーターの作成に向けて—」 第7回アジア未来会議 2024年8月9-13 (11) 日 Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand (中野祥子 Best Presentation Award)
 11. 高濱愛・田中共子 「Session8：派遣留學生のための帰国後のケアとキャリア形成のためのフォローアップ」 国際教育夏期研究大会2024 2024年8月7-8 (7) 日立命館大学大阪いばらきキャンパス
 12. 田中共子・奥西有理 「在日留學生の異性との関わりにおける対人行動上の困難と対処」 異文化間教育学会第45回大会 2024年6月22-23日 金沢大学
- その他
1. 記事 田中共子 (日本健康心理学会本明記念賞選考委員会委員長) ムーブメント「2024年度本明記念賞の選考経過と講評」『ヘルス・サイコロジスト』No.96 (日本健康心理学会) 2025年3月 1
 2. 論考 田中共子 「日本型多文化共生の道程を考える」『Opinions-オピニオンズ』 2024年8月6日 (<https://web-opinions.jp/posts/detail/742>)
 3. 記事 田中共子 (日本健康心理学会本明記念賞選考委員会委員長) ムーブメント「2023年度本明記念賞の選考経過と講評」『ヘルス・サイコロジスト』No.94 (日本健康心理学会) 2024年7月 7
- 都島 梨紗**
著書
1. 片山悠樹『就「社」社会で就「職」する若者

たち』学文社、2025年、256（都島梨紗・上地香杜・片山悠樹、4章「専門学校からの移行プロセス」担当頁68-93、都島梨紗・上地香杜、9章「保育系／美容系専門学校卒業生の初期キャリア」担当頁179-208）

研究発表

1. 都島梨紗・尾川満宏・上山浩次郎・新藤慶・鈴鹿翔大・市村望・金弘実久・知念渉・野村駿・水野聖良「新居浜太鼓祭りにみるライフコースとジェンダー：トランジション経験の地域差に関する調査報告（1）」、日本教育社会学会、2024年9月13日、信州大学
2. 知念渉・野村駿・水野聖良・市村望・上山浩次郎・尾川満宏・金弘実久・新藤慶・鈴鹿翔大・都島梨紗「沖縄の若者と青年会活動：トランジション経験の地域差に関する調査報告（2）」、日本教育社会学会、2024年9月14日、信州大学
3. 上山浩次郎・新藤慶・鈴鹿翔大・市村望・尾川満宏・金弘実久・知念渉・都島梨紗・野村駿・水野聖良「北海道室蘭の地域的特徴と若者の生活と意識：トランジション経験の地域差に関する調査報告（3）」、日本教育社会学会、2024年9月14日、信州大学
4. 都島梨紗「質的研究におけるオープンサイエンスへの対話に向けて一透明性と匿名性のはざままで一、日本教育社会学会、2024年9月14日、信州大学（招待講演）
5. 都島梨紗「矯正施設を経験した女性による刑事司法システムの解釈実践」、日本社会学会、2024年11月9日、京都産業大学

土口 史記

論文

1. 「嶽麓秦簡「遷吏令甲」考釋」、『岡山大学文学部紀要』第77号、2024年12月、39-51頁

研究発表

1. 「秦漢律中の耐刑与女子」京都大学人文科学研究所・武漢大学簡帛研究中心主催「新出土秦漢簡牘国際学術研討会」、2024年8月8日、京都大学人文科学研究所
2. 「帝国としての秦とその官吏たち—簡牘史料から見た秦帝国の誕生と滅亡—」RIDCマンスリー研究セミナー、2024年11月27日、岡山大学文明動態学研究所（オンライン）
3. 「秦漢簡牘所見“避吏”考：官吏の怠慢及其処罰（初稿）」香港中文大学・新亞研究所主催「簡牘内外：上古文献与上古歴史」国際学術研討会、2025年3月26日、香港中文大学

堤 良一

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「感じの良い日本語？」カセサート大学における講演、2024/9/16、カセサート大学人文学部
2. 「評価的意味と文法現象」talk@ NIDA, 2024/9/18, NIDA (National Institute of Development Administration, Bangkok, Thailand).
3. 「コミュニケーションを重視した日本語教育」タイの高校の日本語教師に向けた講演、Strategic Teacher Empowerment Workshop for Study in Japan, 2024年10月19日、シーパトゥーム大学 (Sripatum University, Bangkok)

4. 「オノマトペ」カセサート大学附属高校3年生を対象にした講義、@カセサート大学附属高校、2024/10/21
5. 「フィルターについて」フランスボルドーモントレーニュ大学日本学科言語教育専門コースにおけるワークショップ、2024年12月13日、オンライン
6. 「外来語の表記について」タイ、カセサート大学人文学部での講義、2025年3月13日
7. 日本言語学会夏期講座講師(日本語文法)、神戸大学、2024年8月26日 - 2024年8月31日

徳永 誓子

著書

1. 川崎剛志・時枝務・徳永誓子・長谷川賢二編『論集修験道の歴史』2寺院・地域社会と山伏、岩田書院、2024年7月、326頁
2. 十津川村史編さん委員会編『十津川村史』歴史資料編(古代中世・文化財)、十津川村、2025年3月、302頁(徳永誓子、第2章4節、97-111頁、第3章1節、127-135頁)

論文

1. 「憑霊信仰研究の展望—合評会を受けて」『岡山地方史研究』162、2024年6月、19-24頁
2. 「怨霊と生きる人びと」『歴史研究』722、2024年8月、24-34頁
3. 「中世の修験道と吉備地域」『岡山の自然と文化』44、2025年3月、91-128頁

研究発表

1. 「中世の憑依信仰」、日本宗教史懇話会セミナー、2024年8月27日、就実大学
2. 「熊野本宮長床衆と兎島山伏」、日本山岳修験学会徳島学術大会、2024年11月17日、あわぎんホール

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 2024年度前期忍者・忍術学講座「修験道の歴史」、2024年4月27日、ハイトピア伊賀
2. 令和6年度歴史と文学の講座「修験道の歴史と播磨の寺院」、2025年2月1日、赤穂市立図書館
3. 令和6年度第2回講習会「修験道の歴史」、2025年2月27日、別院真福寺

中尾 知代

論文

1. 2000年天皇訪蘭にかんするメディア報道について—「皇后さまと白い菊」『文化共生学研究』第23巻 2025年1月15日 33-48頁

研究発表

1. 「捕虜問題と戦争トラウマ」日本オーラル・ヒストリー学会 2024年9月15日 青森大学「シンポジウム 戦争トラウマ 記憶の継承とオーラル・ヒストリー」にて発表
2. 上記シンポジウムにおいて、鼎談「戦争とトラウマ」石田弓・中村江里・中尾知代

東野 将伸

著書

1. 『日本近世の金融と地域社会』塙書房、2025年3月、492頁

論文

1. 「近世後期～明治初期における大森家の経営と頼母子」『岡山地方史研究』164号、2024年12月、1-19頁
2. 「幕末維新期の地域社会における人・モノ・情報—備前国和气郡大庄屋好本家を事例に—」『岡山県立記録資料館紀要』20号、

2025年3月、13-22頁

研究発表

1. 「明治期におけるキリスト教伝道と経済・教育—岡山県笠岡浅野家を事例に一」、岡山地方史研究会4月例会、2024年4月、岡山大学
2. (講演)「幕末維新时期における地域社会の人・モノ・情報—備前国和气郡大庄屋好本家を事例に一」、令和6年度きろく岡山ゼミナール、2024年10月、岡山県立記録資料館
3. (講演)「オープニングトーク」、令和6年度企画展 池田家文庫絵図展「江戸時代のはじまりと池田家」オープニングトーク、2024年11月、岡山シティミュージアム
4. (講演)「古文書のデジタル化・データ公開とその活用」、岡山大学公開講座「池田家文庫『信長公記』の時代とデジタル化された古文書の世界」、2024年11月、岡山大学創立50周年記念館
5. (講演)「堀家の経営と領主—橋家」、堀家住宅特別公開歴史講座、2024年11月、堀家住宅
6. 「『文明動態学』Vol.3「特集 災害・文明と地域社会」所収論文を検証する」、第25回 災害文化と地域社会史研究会、2024年11月、オンライン
7. (講演)「江戸から明治にかけての農村社会について—宇治町地区を中心に—」、令和6年度高梁歴史いろは塾、2025年3月、高梁市役所
8. 「堀家の金融活動と領主・地域社会」、科学研究費補助金(基盤研究B)「石見銀山附幕領における銀山・銅山・鉄山—非農業世界からみた「幕領社会」論の構築—

研究会、2025年3月、オンライン

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. (図録解説執筆)『令和6年度企画展 池田家文庫絵図展『江戸時代のはじまりと池田家』、岡山大学附属図書館、2024年10月、22頁(東野将伸「解説」・「出展資料解説」1-18頁)

本田 晃子

著書

1. 沼野充義、沼野恭子、坂上陽子『ロシアの暮らしと文化を知るための60章(エリア・スタディーズ)』明石書店、2024年10月、388頁(本田晃子「ロシア建築の二面性」346-350頁)

論文

1. 「住まいの社会主義化——1920年代ソ連における住宅と家族をめぐる実験」、『日本住宅会議会報』122巻、2024年10月、55-57頁

研究発表

1. The Garden of Eden in the Polar Regions: An Analysis of Collective Housing Designed by Alexander and Elizaveta Shipkov, The 12th East Asian Conference on Slavic-Eurasian Studies, 2024年7月28日, Han yang University
2. 「エフェメラルな永続性：磯崎新とロシア的なるものの交錯」、建築史学会シンポジウム「磯崎新と西洋建築史」、2024年10月13日、東京大学
3. 「極地という宇宙：アレクサンドル・シプコフによる集合住宅「ポリヤール(Поляр)」計画の分析」、表象文化論学会オンライン研究フォーラム、2024年11月23日、オンライン

4. 「団地は宇宙の夢を見るか? ——ソ連・ロシア映画における団地と宇宙の不都合な関係」、シンポジウム「各国映像メディアにおける団地表象の比較研究」、早稲田大学、2025年3月15日
- その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. 「書評 亀田真澄著『マス・エンパシーの文化史: アメリカとソ連がつくった共感の時代』」、『ロシア語ロシア文学研究』161巻56号、2024年10月
2. 「人類の都 ジャン=バティスト・マレ著 ユートピア構想の夢と現実」、『日本経済新聞』、2024年12月7日
3. 「平成30年7月豪雨災害により被災した史料の救済」、令和6年度岡山県文化財等救済ネットワーク研修会、2024年11月27日、岡山県古代吉備文化財センター
4. 「ハンセン病療養所における「未感染児童」について」、JST-RISTEX 医療・ヘルスケア領域におけるELSIの歴史的解析とアーカイブズ構築 2024年度第1回ワークショップ、2024年12月8日、オンライン
5. 「加藤清正と本妙寺部落—(神格化)と近代日本のハンセン病」、岡山大学文学部2024年度プロジェクト研究シンポジウム「神格化をめぐる表象と文化」、2024年12月14日、岡山大学
6. 「ハンセン病関係資料の収集・保存・活用—その課題と可能性」、令和6年度熊本大学文書館企画一般公開セミナー熊本で考えるハンセン病資料、2024年12月21日、熊本大学

松岡 弘之

著書

1. 小川正子『小島の春』河出書房新社、2024年12月、325頁(松岡弘之「解説—小川正子とその時代」316-321頁)

論文

1. 松岡弘之「「愛生保育所」運営記録にみる「未感染児童」の処遇」、『日本ハンセン病学会雑誌』93巻1号、2024年4月、25頁
2. 松岡弘之「森田竹次「隣組長会控帖」について—戦後長島愛生園の不自由者たち—」、『岡山大学文学部紀要』77号、2024年12月、103-118頁
3. 「小川正子とその時代—近代日本のハンセン病政策と臨床医」、いま『小島の春』を読むということ、2025年1月26日、スロウな本屋
4. 「太田正雄(木下奎太郎)のハンセン病研究について」、ハンセン病資料館友の会講演会、2025年2月23日、国立ハンセン病資料館
5. 「第17師団研究の射程—文献史学の立場から」、第1回大学と戦争遺跡カンファレンス「大学と戦争遺跡—調査・保存・教育—」、2025年3月18日、岡山大学

研究発表

1. 「「愛生保育所」運営記録にみる「未感染児童」の処遇」、第97回日本ハンセン病学会総会・学術大会、2024年6月13日、国立療養所邑久光明園
2. 「「わたしたち」のハンセン病問題 —長島における「自治」の射程—」、長島愛生園フィールドワーク・ワークショップ、2024年10月5日、国立療養所長島愛生園
3. 「第17師団研究の射程—文献史学の立場から」、第1回大学と戦争遺跡カンファレンス「大学と戦争遺跡—調査・保存・教育—」、2025年3月18日、岡山大学
4. その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. 松岡弘之「志戸坂峠を見守る開鑿碑」、『広報にしあわくら』740号、2025年1月、12頁
2. 株式会社コロエ編『長島愛生園フィー

ルドワーク・ワークショップの記憶』
NPO法人ハンセン病療養所世界遺産登録
推進協議会世界遺産に向けたロードマッ
プ委員会発行、2025年3月、34頁（松岡
弘之「わたしたち」のハンセン病問題—
長島における「自治」の射程—」10-12頁）

松村圭一郎

著書

1. 『人類学者のレンズ 「危機」の時代を読み解く』西日本新聞社、2024年4月、208頁
2. 河出書房新社編『友達関係に悩んだときに役立つ本を紹介します』河出書房新社、2024年4月、168頁（松村圭一郎「友だちになりたい人にはどう近づく？ 「贈与論」マルセル・モース【著】、森山工【訳】」121-128頁）
3. 酒井隆史編『グレーバー+ウエングロウ『万物の黎明』を読む 人類史と文明の新たなヴィジョン』河出書房新社、2024年4月、286頁（松村圭一郎「グレーバーの人類学が残したもの」125-133頁）

論文

1. （共著）松村圭一郎・井上雅雄「なぜ「くらし」のアナキズムを考えるのか？」、『日本精神障害者リハビリテーション』28巻1号、2024年6月、7-10頁
2. 「人類の「働く」はいかに変化してきたのか？」、『あらしとよりよう』298号、2025年2月、24-31頁

研究発表

1. 「「地方」というフロンティア～人口減少時代をどう生きるか？」、2024年度CHCウィーク講演会、2024年6月21日、四国学院大学
2. 「制度に縛られない福祉をいかに広げる

のか？～社会福祉法人の実践を「くらしのアナキズム」の視点から再考する～」、全国青年会福祉施策研究・提言委員会セミナー、2024年7月8日、全国社会福祉協議会・新霞が関ビル

3. 「人類にとって「移動」の可能性とは？ エチオピアから中東・ヨーロッパへの出稼ぎ／移民の事例から」、九州人類学研究会／日本文化人類学会九州・沖縄地区研究懇談会、2024年10月20日、西南学院大学
4. 「資本主義と「移動」との関係を考える エチオピアから中東・ヨーロッパへの出稼ぎ／移民の事例から」、国立民族学博物館共同研究会「グローバル資本主義における多様な論理の接合」、2024年11月16日、国立民族学博物館
5. 「誰が福祉と自治の主体なのか？ ケア概念からの再検討」、第27回社会福祉法人経営青年会全国大会・第3分科会、2024年11月29日、神戸メリケンパークオリエンタルホテル
6. 「“うしろめたさ”から考える商いの論理 「人権＝人間の権利」を考える手前で」、日本フィランソロピー協会・第5回ビジネスと人権エグゼクティブセミナー、2024年12月19日、アマタホールディングス株式会社
7. 「＜移動＞の人類学 エチオピア人出稼ぎ女性の経験から」、第41回RIDCマンスリーセミナー、2025年1月15日、オンライン
8. 「文化人類学の「見る」と「書く」 まちをフィールドワークするために」、いちだいい地域共創プロジェクト、2025年2月14日、AIR HIROSHIMA STUDIO

9. 「病むことの人類学～人間は「病い」にどう向き合ってきたのか?」、NPO法人岡山県精神科医会講演会、2025年2月15日、岡山県精神科医療センター
10. 「人類学からみた「コレクティブ」とは何か?」、art for all オンラインイベント「アートに必要なコミュニティとは」、2025年3月3日、オンライン開催
- その他（翻訳、事典項目、書評等）
1. 「書評 ヤン・ルカセン著『仕事と人間(上・下)』」、2024年5月11日、日本経済新聞
2. 「書評 石灘早紀著『運び屋として生きる』」、2024年6月1日、北日本新聞ほか
3. 「解説 都市をつくりだす複数の知性」シャノン・マターン『スマートシティはなぜ失敗するのか 都市の人類学』依田光江訳、2024年10月、ハヤカワ新書、241-249頁
4. 「ドローン測量で探る鳥取上高塚古墳」、赤磐市史跡ミニシンポジウム「検証！鳥取上高塚は前方後円墳なのか」、2024年8月3日、赤磐市立中央図書館
5. 光本 順、ライアン・ジョセフ、山口雄治、清家 章、「UAV-LiDAR測量に基づく岡山市造山古墳東丘陵の遺跡分布調査」、日本文化財科学会第41回大会、2024年7月27日、青山学院大学
6. 本郷千春、光本 順、ライアン ジョセフ、清家 章、山口雄治、久世宏明、「UAVデータによる前方後円墳の周濠探査」、(一社)日本リモートセンシング学会第76回(令和6年度春季)学術講演会、2024年6月5日、海洋研究開発機構(JAMSTEC)横浜研究所
7. 「弥生時代における家形土器の展開―岡山市雲山鳥打墳丘墓群の事例をもとに一」、日本考古学協会第90回総会、2024年5月26日、千葉大学
- 光本 順**
著書
1. 設楽博己編『日本史の現在』1 考古、山川出版社、2024年5月(光本 順「考古学からみたLGBTQ」267-282頁)
- 研究発表
1. Chiharu Hongo, Jun Mitsumoto, Joseph Ryan, Yuji Yamaguchi, Akira Seike, Hiroaki Kuze, Near-surface Analysis for Exploration of the Moat Surrounding a Keyhole-shaped Mounded Tomb Using UAV Data. AGU24, 2024年12月9日, Washington, D.C.
2. 「UAV-LiDARで描く岡山の古墳」、地盤工学会中国支部岡山地域セミナー、2024年11月11日、岡山大学
3. 「ドローン測量で描く岡山の古墳」、第37回RIDCマンスリー研究セミナー、2024年9月18日、オンライン
- 宮崎 和人**
論文
1. 「論理可能と推論―「してもおかしくない」「しても不思議はない」―」、『岡山大学文学部紀要』77、2024年12月、65-75頁
2. 「「Modality」と「おしはかり」―奥田靖雄著作集補遺編に接して―」、『東アジア国際言語研究』7、2025年1月、41-56頁
- 山本 秀樹**
その他（翻訳、事典項目、書評等）
1. 「【コラムC】吉備津神社」、『岡山県立博物館2024年度(令和6年度)テーマ展 岡

山の至宝—正宗文庫の輝き』、2024年9月、19頁

2. 「2-5 備中国吉備津神社之図」、『岡山県立博物館2024年度（令和6年度）テーマ展 岡山の至宝—正宗文庫の輝き』、2024年9月、25頁
3. 「3-10 雪舟禪師碑詞」、『岡山県立博物館2024年度（令和6年度）テーマ展 岡山の至宝—正宗文庫の輝き』、2024年9月、41頁
4. 「3-11 伊勢物語新釈」、『岡山県立博物館2024年度（令和6年度）テーマ展 岡山の至宝—正宗文庫の輝き』、2024年9月、42頁

遊佐 徹

論文

1. 「卓弥呼の残像（中）——明清通俗文学作品に描かれた日本人女性と日本イメージ——」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』58巻 2024年12月27日、25-31頁

研究発表

1. 「中国近代における権力者の身体——隠蔽から遍在へ 西太后、孫文、毛沢東」2024年度岡山大学文学部プロジェクト研究神格化をめぐる表象と文化 2024年12月14日、岡山大学文法経講義棟20番教室

吉田 浩

著書

1. 吉田浩『ロシア農奴解放と近代化の試み』山川出版社、2024年7月、76頁

研究発表

1. 「ロシア農奴解放後のロシア農民世界の

具体相」、ロシア史研究会大会、2024年10月6日、東京大学

RENOUD Loïc

論文

1. Renoud Loïc & Sagaz Michel. Une analyse sémiotique des situations didactiques dans l'Approche Silencieuse. Cas des premières structures prédicatives dans *The common sense of teaching foreign languages*. *Revue japonaise de didactique du français*, 19 (1&2), 2024, pp. 145-161.
2. Renoud Loïc & 栗林裕「フランス語(原文)と日本語訳の対照—『星の王子さま』のみえること」守屋三千代・池上嘉彦編集代表・角道正佳・栗林裕・岡智之・宮岸哲(編)『「ナル的表現」をめぐる通言語的研究—認知言語学と哲学を視野に入れて』、ひつじ書房、2025年3月、155-163頁
3. Renoud Loïc & 栗林裕「フランス語の「ナル的表現」守屋三千代・池上嘉彦編集代表・角道正佳・栗林裕・岡智之・宮岸哲(編)『「ナル的表現」をめぐる通言語的研究—認知言語学と哲学を視野に入れて』、ひつじ書房、2025年3月、297-302頁

研究発表

1. Renoud Loïc, "Enseignement de la grammaire : différentes approches = différents apprentissages?", Congrès de la Société Japonaise de Didactique du Français, 11 mai 2024, Université des Ryūkyū.
2. Renoud Loïc, "Les déterminants sous l'angle de leur indexicalité : un matériel pour l'apprentissage initial en FLE

- en contexte japonais”, Congrès de la Société Japonaise de Didactique du Français, 12 mai 2024, Université des Ryūkyū.
3. Renoud Loïc, “Language proficiency from a semiotic perspective”, Centre for Language Studies International Conference (CLaSIC) 2024, 5 December 2024, Singapore - National University of Singapore.
 4. Renoud Loïc, “Iconicity and self-evidencing in speech”, IcoSem3, 9 February 2025, Otaru - Otaru University of Commerce.
 5. Renoud Loïc, “L’habitude de parler. Pour une théorie pragmatique-sémiotique de l’interaction verbale”, 7 mars 2025, Colloque international. Les études françaises et francophones : brouiller les frontières disciplinaires, Hyderabad - The English and Foreign Languages University.
 6. Renoud Loïc & Singh Gitanjali, “Politique et poétique de la mémoire dans La mémoire délavée de Nathacha Appanah”, 8 mars 2025, Colloque international. Les études françaises et francophones : brouiller les frontières disciplinaires, Hyderabad - The English and Foreign Languages University.